



2025 年 6 月 30 日

各 位

会 社 名 サ イ バ ー ス テ ッ プ 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 佐 藤 類
(コード番号：3810 東証スタンダード市場)
問 い 合 せ 先 取 締 役 緒 方 淳 一
(TEL 0570-032-085)

新たな事業（暗号資産の戦略的備蓄・運用）の開始に関するお知らせ

当社は、2025 年 6 月 30 日開催の取締役会において、下記のとおり新たな事業を開始することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 事業開始の趣旨

当社グループは、以前より、既存事業の発展に加えて、新たな収益基盤の模索及び事業の多角化を進めることにより、企業グループ価値の更なる向上を目指してまいりましたが、このたび、暗号資産を軸とした Web3 領域に経営資源を集中させるべく、暗号資産の戦略的備蓄・運用のための資産運用と循環を担う戦略部門「クリプテック・キャピタル (CRYPTTECH Capital)」を新設いたします。当該事業部門は、暗号資産などの資産を購入価格より高く売却することにより得られるキャピタルゲイン（価格上昇益）とステーキングや利息など、保有中の暗号資産から定期的に得られるインカムゲイン（利回り収益）の両立を図りつつ、Web3 コンテンツ収益やトークンを再投資・備蓄・活用し、企業内で価値を循環させる資産循環モデルの構築を推進してまいります。特に当社では、ゲームやミームなどの当社 Web3 サービスから創出されたトークンを、戦略的にビットコインやイーサリアムといった主要暗号資産へと換価・集約し、備蓄資産へと転換するモデルを推進することにより、ユーザー参加型コンテンツで生まれた価値が企業資産に還元される「自己循環型トークンエコノミー」の実現を目指してまいります。また、暗号資産市場は、長期的に見れば、株式、債券、不動産など、従来の金融商品として位置づけられている伝統的資産クラスを上回る成長率を示しており、規制整備の進展と機関投資家の参入に伴い、今後も拡大が見込まれています。特に、ユーザーや支持者等のコミュニティ主導で価値が形成されるミームコインは、新しいマーケティング手法としても注目されており、不動産や株式など、実際の世界に存在する資産をトークン化してブロックチェーン上で取引可能にした RWA（リアルワールドアセット）やゲーム IP との親和性が高く、当社が展開する Web3 プロダクトとも連動可能性の高い領域です。

当社はこの潮流を「所有と体験が融合するメタバース経済」の序章と捉え、クリプテック・キャピタル (CRYPTTECH Capital) を中核とした暗号資産戦略によって、資産管理とユーザー体験の垂直統合を図ります。加えて、自社関連コインの発行・運用や、トークンなどに決済、特典、投票権などの使用目的を持たせて価値や利便性を拡張させていくユーティリティ展開も視野に入れた統合戦略を進めてまいります。

2. 当該事業を担当する部門

クリプテック・キャピタル (CRYPTTECH Capital)

3. 新たな事業の概要

(1) 新たな事業の内容

①クリプテック・キャピタル (CRYPTTECH Capital) における暗号資産戦略

当社は、暗号資産を以下の軸で戦略的に備蓄・運用・活用いたします。

(i) . 備蓄ポジション〈キャピタルゲイン〉

将来の価格上昇益を目的として、ビットコイン (BTC) 、イーサリアム (ETH) といった安定性と信頼性の高い基幹資産を中核に、Eggle Energy (\$ENG) や有望なミーム／ゲームコイン、さらには当社が将来発行を検討するトークンなどを組み入れ、価格変動リスクを考慮の上、中長期的視点で戦略的な保有方針を検討してまいります。

(ii) . トークン吸収・主要通貨化〈変換備蓄〉

当社が展開する Web3 ゲームやミーム起点のサービス群から発行、流通した各種トークンについては、外部市場での評価や流動性を見極めたうえで、ビットコインやイーサリアムなどの基幹資産にスワップ (交換) を実施します。サービス内で生み出された価値を主要暗号資産に変換し、備蓄ポジションへと取り込むことで、資産価値の安定性と拡張性を両立させる資産循環モデルを確立します。

(iii) . 運用ポジション〈インカムゲイン〉

WBTC・WETH などの他のブロックチェーン上でも利用できるように設計された暗号資産であるラップド資産を用いた、自動的に金融取引が行われる分散型金融システム (DeFi プロトコル) への、暗号資産を貸し出して利息収入を得る仕組み (レンディング) や流動性提供により利回りを確保し、得られたインカムは再投資によって複利運用を図ります。

さらに、備蓄・運用した資産は当社 Web3 コンテンツでの実利用にも転化し、外部市場と自社経済圏を双方向で接続する循環型 Web3 モデルの確立を目指します。

②暗号資産購入方針

(i) . 投資対象：ビットコイン (BTC) 、イーサリアム (ETH) 、Eggle Energy (\$ENG) 、その他ミーム／ゲームコイン、自社関連トークン (発行時)

(ii) . 投資目的

- a. マクロ環境への耐性と価値保存：供給量に上限のある希少資産 (例：BTC) を中核に据え、インフレヘッジおよび資産の購買力維持を図ります。
- b. 成長領域へのレバレッジ：当社 Web3 プロダクトや IP を起点とするトークンの市場展開と、それに伴う価格上昇による成長益の獲得を目指します。
- c. 自社経済圏との統合性確保：ブロックチェーン基盤の資産管理により、運用資産を自社サービス群と連携可能な構造とし、将来的なデジタル所有権を表す NFT や、DeFi (分散型金融) による新たな金融エコシステム、自律分散的な意思決定を行う DAO 展開などへの布石とします。

(iii)．購入基準：価格推移、時価総額、取引流動性、ボラティリティ指標、プロジェクトの持続性・信頼性などを総合評価し、分散・段階的な取得方針を採用します。

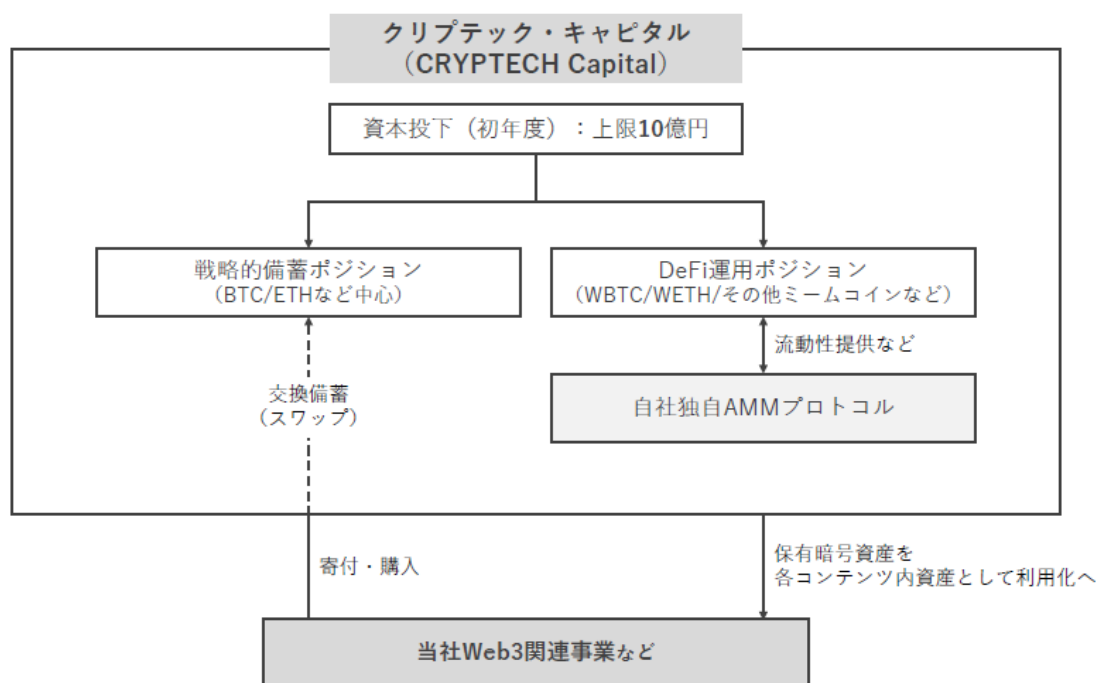
③自社開発 AMM プロトコルの導入

CRYPTTECH Capital では、当社独自経済圏の流動性を自律的に管理・運用するため、独自開発の社内専用 AMM（自動マーケットメイク）プロトコルを検討中です。本プロトコルにより、社内外の資産移動を効率化し、突発的な価格変動への迅速な対応も可能にする柔軟な資産運用基盤の整備を目指します。

(2) 当該事業の開始のために支出する金額及び内容

本事業の開始に際して、2026 年 5 月期においては、自己資金を充当し下記の投資を予定しております。なお、市場動向を見極めつつ段階的に積み増し予定としております。

- ・戦略的備蓄額（上限）：10 億円
- ・初期購入予算：2 億円



3. 日程

- (1) 取締役会決議日 2025 年 6 月 30 日
- (2) 事業開始日 2025 年 7 月 1 日

4. 会計・税務上の取り扱い

暗号資産の保有残高計算および税務処理の具体的方法については、国際会計基準と各国税制の最新動向を踏まえ、監査法人や税理士と協議中です。確定次第、速やかに開示いたします。

5. 今後の見通し

今後は、市場環境の変化に応じて、キャピタルゲインを目的とした備蓄と、インカムゲインを目的とした運用の比率を柔軟に調整しつつ、資産全体の安定性と成長性のバランスを図ってまいります。2026年5月期においては、初期投資額として2億円を想定し、最大で10億円までの備蓄を段階的に検討しております。市場の流動性やボラティリティ等の指標を勘案しつつ、機動的な資産運用を進める方針です。

あわせて、当社が展開するWeb3サービス群において創出された各種トークンが、主要暗号資産（BTC・ETH等）に換価・蓄積される資産循環モデルを本格稼働させ、ユーザー参加型コンテンツから企業収益基盤への資産流入経路を整備してまいります。なお、今後の事業進捗等により、適宜開示の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以上